令和元年度　第１回豊後高田市総合教育会議議事録

日　時　令和２年２月 25 日（火）14：00 開会
場　所　豊後高田市役所高田庁舎３階
　　301 会議室
出席者　市　長　　佐々木　敏夫
　　教育委員会
　　教育長　　河野　潔
　　委　員　　高井　郁郎
　　委　員　　大嶽　由美子
　　委　員　　宮﨑　みゆき
　　委　員　　松成　康男
　　事務局
　　市総務課長　　佐藤　之則
　　教育総務課長　安藤　隆治
　　学校教育課長　衛藤　恭子
　　教育総務課主幹兼総務管財係長
　　近藤　教夫
　　市総務課課長補佐兼総務法規係長
　　小野　政文
　報道関係　大分合同新聞豊後高田支局長
　　佐藤　章史
　　企画情報課広報担当
　　市ケーブルネットワーク担当

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

１．開会

○市総務課長　佐藤　之則

皆さん、こんにちは。市総務課長の佐藤でございます。進行をさせていただきます。

本日の出席者は、佐々木市長、河野教育長、高井委員さん、大嶽委員さん、宮崎委員さんです。松成委員さん、６名全員の出席でございます。

ただ今から、令和元年度第１回豊後高田市総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、皆さんにご了承いただくことがございます。

この会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」で、原則公開するとなっております。法の趣旨にそって、原則公開で開催させていただき、会議録につきましても、ホームページで公開させていただきますので、ご了承願います。

本日は、大分合同新聞豊後高田支局長、市の広報担当、ケーブルテレビの担当が、会場に入っております。

それでは最初に、佐々木市長よりごあいさつ申し上げます。

２．市長あいさつ

○市長　佐々木　敏夫

皆さんこんにちは。

本日は、年度末を控え、たいへんお忙しい中、令和元年度の総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

教育委員の皆様方には、日頃より、豊後高田市の教育のまちづくりに関し、ご理解とご協力をいただいていることに、衷心より感謝とお礼を申し上げます。

さて、来週から議会が開会し、新年度予算を提案しております。

学校教育の予算といたしましては、主に、新「学習指導要領」の全面実施に関連する予算、施設の長寿命化や高田中学校の照明施設のＬＥＤ化に関する予算、不登校児童・生徒等の学び舎として活用している「ビリーブ」の改築予算などでございます。

社会のグローバル化や人工知能、ＡＩなどの技術革新が急速に進み、大人でも予測困難な時代を迎えております。そのような社会で、将来を担っていける子ども達への教育をしっかりとやっていかなければなりません。

そのような中、学校や地域、教職員を取り巻く環境などについて、本日、皆様方のご意見をお聞きできればと思っております。

また、住みたい田舎ランキングでは 10 万人未満の都市で２年連続総合第１位・８年連続のベスト３、その結果として、人口動態では６年連続の社会増を達成しました。これらは、本市が誇る「教育のまちづくり」と「子育て支援施策」が高く評価されたものと思っております。

今後とも、皆様からのお力添えをいただきながら、

本市の未来を担う子ども達の教育に、全力で取り組んでまいりたいと思っておりますので、何とぞ、よろしくお願い申し上げます。

○市総務課長　佐藤　之則

それでは、早速ですが、協議・調整事項に移ります。

会議は、豊後高田市総合教育会議運営要綱第２条第３項に基づき、市長が議長として議事進行を行うこととなっています。

佐々木市長、よろしくお願いします。

３．協議・調整事項

（１）　学校施設の長寿命化について

○市長　佐々木　敏夫

それでは、議長を仰せつかりましたので、会議を進めてまいります。

まず、学校施設の長寿命化について、事務局から説明をお願いします。

○教育総務課長　安藤　隆治

こんにちは。教育総務課長の安藤です。私の方からは、学校施設の長寿命化について説明いたします。

資料は、２ページからになります。

長寿命化の件につきましては、昨年もこの会議の時に一部ご説明申し上げましたけれども、皆さんご案内のとおり、本市の学校施設につきましては、経年等によりまして老朽化が進んでおり、今後、これらに対しどうこの対策に取り組んでいくかということが、大きな課題となっています。

そこで、市の方では、平成 29 年度に長寿命化計画という計画を策定しました。

この計画につきましては、国の方から、平成 32 年度までに策定が義務付けられまして、いわゆる個別計画ということになりますが、今後の施設維持保全の方向性を検討し、屋根や外壁といった部分別、学校別の優先順位を考えた上で、整備の内容、時期、費用等について具体的に定めております。この計画がないと国の方も、なかなか補助金とか出していただけないという内容になっております。

今年度からは、この計画に基づいて、国の助成等を活用しながら、２か年計画で高田小学校外壁と屋根の改修工事に着手しているところであります。

本日は、市内学校施設の老朽化の現状と今後の改修の方向性について、簡単に説明させていただきます。

資料のほうは、３ページをご覧になってください。

計画策定に際しましては、ご覧のような４段階の評価基準に基づきまして、屋根、外壁などの健全度、いわゆる老朽判定をしたところでございます。

この表の下の方に行くほど、劣化が進んでいるということになります。中でも、オレンジ色の部分の「Ｄ判定」につきましては、早急な対策を講じなければならないということになっております。

４ページをご覧ください。

この表は、計画の対象となる市内の全学校に、給食センターを加えたもので、棟数は、全部で 47 棟になります。

表の上部の黄色い欄の「建物基本情報」の一番右に、「築年数」の記載がありますが、例えば、建築から 40 年以上経過した、高田小学校、桂陽小学校、香々地中学校をご覧いただくと分かるように、屋根や外壁に最低の「Ｄ判定」が出ています。

なお、昭和 56 年以前の旧耐震基準の建物につきましては、既に耐震補強が完了しておりますが、大規模改修については地域差はあるものの、近年は行われてはおらず、局部的な補修に留まっている状況でございます。

表の一番右、オレンジ色の欄の「劣化状況評価」を見ていただくと、屋根・屋上の状況については、数回にわたり防水補修等を実施していることもあり、若干、高めのよい判定が出ておりますが、外壁については、建築時から全く手つかずのものが多く、早期の改修を要するとの結果が明らかになっております。

裏面は、その外壁部の劣化状況を写真等でまとめたものです。５ページをご覧ください。

表の上２行めをご覧いただくとお分かりいただけると思いますが、築 40 年以上では約 70%、次の３行めの 30 年から 39 年のランクでは約 40%に「Ｄ判定」が出ておりまして、建築から 30 年以上経過したものというのが、一つの改修の節目と言えると思います。

写真にありますように、高田小学校、桂陽小学校、香々地中学校につきましては、特にコンクリートの劣化による外壁の亀裂であるとか、軒天のモルタルの剥離・崩落が現実として起こっている状況であり

ます。

この劣化診断に基づきまして、改修の優先順位をまとめたものが、次の６ページになります。

横軸が「建物の健全度」、縦軸が「施設の重要度」になります。

例えば、重要度の高い建物である「校舎」であって、その健全度が低いというもの、表ではピンクに塗られた部分になりますが、そこが一番、改修する優先度が高いということになっています。

今後、左の枠内にある部分を特に優先しながら、整備をしていく必要があるというふうに教育委員会としても考えております。

教育委員会といたしましては、本市の子ども達が安全で、安心して学習できる環境を継続していくためにも、欠かせない重点の事業と考えておりますが、今後、長寿命化改修には多大な財政負担も伴うことから、現状の把握、そして、今後の方針について共通認識を持っていただくため、ご提案したものでございます。

私の説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○市長　佐々木　敏夫

はい、ありがとうございます。質問は、まとめて一括していただきたいと思っております。

（２）　いじめ・不登校対策について

○市長　佐々木　敏夫

それでは２番目の「いじめ・不登校対策について」、事務局からお願いします。

○学校教育課長　衛藤　恭子

こんにちは、学校教育課長をしております衛藤です。よろしくお願いいたします。

資料は７ページからご覧になっていただきたいと思います。

すべての児童生徒が安心して、学校生活を送り、さまざまな活動に取り組んでいけるようにということで、各学校で安心安全な学校づくりを進めているところでございます。また教育委員会でも、豊後高田市のいじめ問題対策協議会を年２回開催する中で、連携した取り組み等を行っているところでございます。本年度のいじめ・不登校に係る状況について報告させていただきたいと思います。

まず、資料の８ページ、９ページ、10 ページにつきましては、平成 30 年度の文部科学省による児童生徒の問題行動、不登校と生徒指導上の諸問題に関する調査の大分県における調査結果でございます。このあと市の状況を説明する際に参考にしていただければと思いまして、載せております。

その中では、暴力行為の発生件数、いじめの認知件数、解消率の推移、９ページに移りまして、小中学校の不登校、児童生徒の推移、不登校の要因、そして 10 ページには高等学校での不登校状況、中途退学者の状況についての調査結果が記載されております。

11 ページをご覧ください。

本市の今年度、２学期末のいじめの調査結果について記載させていただいております。

まず、いじめの定義についてなんですけれども、「いじめとは、児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等、当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」というふうに定義付けられております。

最後の「当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じている」と、ここを大事にいたしまして、本市といたしましても早く気づいて、早く支援・対応することによって、解消していくというところで進めているところでございます。

この定義を受けまして、11 ページの数についてですけれども、１．いじめを認知した学校数、いじめの認知件数でございます。小学校ではすべての学校で、いじめを認知しております。認知件数につきましては 199 件、中学校ではいじめをした学校が５件、いじめがなかった学校が１件でございます。中学校の認知件数につきましては 50 件となっております。合計しますと、小中学校で 12 月末の結果といたしましては 249 件が認知されております。その認知したいじめにつきましては、学校、関係機関、ご家庭等と連携しながら、早期の解消に向けて取組みを進めております。

２．いじめの現在の状況をご覧ください。まず、「解消」についてなんですけれども、いじめが発見されて解消されたというふうに受け取るのは、納ま

ってから３箇月を経過して、その時に本人、それから保護者等に、「いま大丈夫ですか」といった確認をして、そこでいじめが解消したというふうにとらえるようになっておりますので、解消については、ある程度の定義がございます。それに基づいた数字でありますけれども、小学校で 12 月末までに解消したのが 103 件、取組中の件数が 96 件、中学校では解消した件数が 24 件、取組中の件数が 26 件となっております。３学期も進んでおりますので、解消の数字は進んでいると感じております。

それでは、３．いじめの認知件数の学年別、男女別内訳につきましては、そのような状況になっております。特に低学年の児童につきましては、「からかい」等、言われたときにいじめを受けたというふうなとらえをしておりますので、数字が高くなっております。

11 ページ下は、過去５年間の２学期末のいじめの推移を記載しております。冒頭申し上げた定義に基づきまして、やはり見えにくいいじめを早期に発見するという意識が、学校の教職員にもそれから児童生徒の方にも意識が高まりつつあって、このような数字の結果になっているというふうにとらえております。

続きまして、12 ページをご覧になってください。令和元年度豊後高田市いじめ問題等の状況について、ご説明申し上げます。

まず、いじめの発見について調査をしております。学校の教職員等が発見した件数が 135 件になっております。これには、スクールカウンセラー等からの発見、それから、アンケート調査などの学校の取組により発見したケースがあがっております。このアンケートによる子どもたちの訴えを大事にして、水面下で動いているものも早期に見つけるようにしております。

それから、学校の教職員以外からの情報により発見した件数が 114 件となっております。本人からの訴え、保護者からの訴え等の数字があがっております。

２．いじめられた児童生徒からの相談の状況でございます。主に学級担任や保護者、家族、友人に相談をしております。ただ、誰にも相談をしていないというのが小学校で２件、中学校で３件あがっておりました。この児童生徒につきましては、アンケートで訴えがあったのに対してすぐに面談等も行って、状況を把握しているとことところであります。

３．いじめの態様についてでございますが、どういったいじめの態様があるのかということで、これは文部科学省の調査項目に基づいてあげておりますが、やはり多いのが、国や県と同様に「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。」というのが、小学校中学校でも多くなっております。それから「仲間はずれ、集団による無視」「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、けられたりする」となっております。

次の 13 ページです。４．いじめの対応状況について、まずは、（１）いじめられた児童生徒への特別な対応ということで、これもすべて文部科学省の調査項目に則って記載しておりますけれども、「④学級担任や他の教職員等が家庭訪問を実施する。」ということ、それから、「⑥教育委員会等と連携して対応する。」という組織的な対応で取組みを進めております。（２）いじめる児童生徒への対応といたしましては、まず、保護者へもしっかり報告させていただいて、指導支援にあたるということ。それからいじめられた児童生徒やその保護者に対する謝罪の指導等を丁寧に行っているところであります。

すべての学校で、基本方針を定めておりますので、それに基づいて対応しております。それに加え、人間関係づくりを大事にしたり、分かる授業づくりを進める中でいじめを産まない集団というものを目指して取り組みを進めております。また、子ども達の目に見えない実態を把握するために、学級集団満足度調査、級友テストと呼ばれるものなんですが、こちらを実施して、未然防止にもつなげております。

続けて、14 ページをご覧ください。令和元年度 12 月末の不登校の状況につきまして、１．欠席日数毎の人数及び不登校等の人数をご覧ください。30 日以上の欠席を「不登校等」と定義づけられておりますので、現在、34 名の児童生徒が 30 日以上の欠席の状況にあります。そのうち、全欠席、登校できていない児童生徒が２名おります。このうち、教育支援教室ビリーブに通っている子ども達が小学校で２名、中学校で６名、計８名がおります。

２．不登校等生徒への対応につきましては、学校

では校内対策委員会をきちっと開いて、カウンセラーやスクールソーシャルワーカー、それから関係機関と連携した取組みを行っております。教室にはなかなか入れないんだけれども、保健室など別室での登校で支援している児童生徒もおります。

家庭への働きかけにつきましては、不登校の子どもの状況に応じて声掛けをする、定期的な家庭訪問をするなどをそれぞれのケースに応じて行っております。カウンセラーやスクールソーシャルワーカーが訪問するなども行っております。

３．不登校の要因につきましては、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」、「家庭に係る状況」に関する件数が多くなっております。

続いて、15 ページをご覧になってください。令和元年度二学期末の不登校調査結果で、今年度は 34 名の不登校の子ども達がいるわけでありますけども、過去５年間の推移を載せております。増加傾向にありまして、非常に複雑多岐にわたる状況が学校の中で起こっております。学校だけなく、保護者、関係機関と連携した取組みを進めていくことが大切であり、それに向けて取組みを進めているところでございます。

ご意見等いただければ幸いでございます。

○市長　佐々木　敏夫

はい、ありがとうございました。

（３）　児童・生徒の学力、体力について

○市長　佐々木　敏夫

それでは３番の児童・生徒の学力、体力について、事務局より説明をお願いします。

○学校教育課長　衛藤　恭子

それでは、引き続き 16 ページからご覧になってください。まずは、学力の面についてご報告申し上げます。17 ページ以降では、今年度の全国学力・学習状況調査の結果を掲載しております。この調査は、小学校６年生、中学校３年生に対して行われるものです。17 ページ上段の調査の目的ですけれども、「全国の子どもたち（小・中学校児童生徒）の学力や学習状況を把握・分析し、これまでの教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証サイクルを確立するためのものです。また、学校における 子どもたちへの教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる基礎データーとする」ものです。

今年度は平成 31 年４月 18 日に実施されました。小学校６年生につきましては、国語と算数の２教科で行われております。昨年度までは、いわゆるＡ問題・Ｂ問題ということで、知識技能それから活用する力を分けて調査が行われておりましたけれども、今年度から、問題内容は、知識技能と課題解決する力を一体的に出題する方法に代わっております。

中段のオレンジのところをご覧になってください。この調査では、質問紙調査も同時に行われます。この調査によって、豊後高田市の子どもたちの家庭生活の様子や友だち関係、学習に向かう意欲等がある程度把握できます。以下、○が全国値に比べて肯定的な回答が高かったものであります。「先生は、よいところを認めてくれている。」「将来の夢や目標を持っている。」「５年生までに受けた授業で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする授業があった。」「地域や社会をよくするために、何をすべきか考える。」「朝食を 毎日食べている。」この５項目については、全国値より高い傾向がございました。

ただ、▽で書いておりますが、「自分にはよいところがあると思う。」の調査項目につきましては、全国に比べマイナス 7.6％低くなっております。この項目については、これまでもなかなか肯定的な回答が得られていないものでございます。「よいとこがあると思うか」と学力の結果を相関的に比べたグラフを載せておりますけれども、やはり自分によいとこがあると肯定的にとらえている子どもほど、学力が高くなっているところがありますので、しっかりと大人が認め、達成感を持つといった教育活動を更に組み立てていく必要があると考えております。

18 ページをご覧になってください。小学校の国語の結果でございます。上段の右端に、豊後高田市、大分県、全国と数字を並べておりますが、国語に関しましては、大分県、全国を超える得点（正答率）を出しております。特に出題された問題の中で、高かったのが漢字を文章の中で正しく使うということ、同異義語、非常に使い分けが難しいところがあるわけですが、日頃からしっかり辞書を使って言葉を引いたり、文章の中で漢字を、熟語を使うという指導を重ねた成果だと分析しております。

下の「調べたことを報告する文章を書く」、この

点につきましても全国に比べてポイントが高くなっております。どのようなところをとらえて文章を書いて行けばよいのか、構造的に文章を把握する指導を重ねた成果だと考えております。

続いて 19 ページをご覧になってください。小学校の算数であります。算数につきましては、全国・大分県と同等の結果となっております。ただ、課題が残っている部分が、「量と測定」、「数量関係」に残しております。また問題の形式としては、記述式にまだまだ力がついていないと書かれております。以下、特徴的な問題について記載しておりますけれども、まず、全国に比べて低かった問題なんですが、「二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取って、それらを関連付けて、一人当たりの水の量の増減を判断し、判断の理由を記述する」という問題だったんですけれども、これが全国より低い数字となっております。資料を関連付けて考えたり、表を算数的な用語を使って説明するといったところの経験をもう少し積ませていく必要があると捉えております。

逆に、全国より高かった問題、全体としての数値としては低いんですけれども、「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合をもとに、除法に関して成り立つ性質を記述することに課題がある」ところに、全国値を上回っております。

続きまして、20 ページから、今度は中学校の結果になります。中学校につきましては、同日、国語・数学・英語の３教科で調査が実施されました。中学校につきましても質問紙調査の結果、肯定的な回答が高かったところと少し伸ばしていきたいところを中段にまとめております。「１・２年のときに受けた授業でＩＣＴをどの程度使用しましたか。」「授業でもっとコンピュータなどのＩＣＴを活用したいと思いますか。」「国語の勉強は好きですか。」といったものが、全国に比べてかなりポイントが高くなっております。

逆に、英語に関する子どもたちの意識が全国の調査よりも低くなっております。「英語の勉強が好きですか」「授業はよくわかりますか」といったところが肯定的な回答が高くありませんので、授業改善が喫緊の課題であると考えております。

21 ページをご覧になってください。具体的な結果です。まず、中学校の国語につきましては、「子ども達が好き」と質問紙でも答えているのを反映されておりますけれども、全国・大分県に比べ、国語のポイントが高くなっております。ただ、課題があったのが、封筒のあて名書きの問題が出題されました。日頃の日常生活と結びつけるということが重要視されておりまして、こういったタイプの力をみる問題が出題されるんですけど、中段に実際の問題を載せております。封筒の書き方を理解しているかということと、右端の方に、全国中学生新聞がありますが、こういった別の情報から、青で囲っているところに、宛名に書くべき情報が記載されているんですけれども、そこから必要な情報を取り出して封筒に転記するという問題です。そして文字の大きさ、住所よりも宛名の方が若干大きくなる、これは書写の力なんですけれども、こういったことを総合的にみると、いう問題になっております。これについて、もちろん最後に「御中」と、書き足さなくてはいけないというところも全てできて○がつくんですが、これにつきましては、全国が 56.8%に対し、本市は 48.3%の正答率でありました。

こういった経験をいかにさせていくかということ、いま求められている結果を授業の中で盛り込んでいくことが必要だと捉えて、改善に向けて取り組んでおります。

逆に非常に高かったのが、「話すこと・聞くこと」で、全国 60.4%に対し、本市は 69.8%と、かなり高いポイントで、かなり力がついているイメージを持ちました。

22 ページをご覧になってください。中学校の数学でございます。数学につきましては、全国・大分県に比べて、62 点ということで成果を上げております。ただ、証明問題、きちっと過不足なく説明する力というものがもう少しついていかなければならないという結果が出ております。

続いて 23 ページをご覧ください。今年度初めて英語の調査が行われました。４技能ということで、話すこと聞くことも含めた技能の調査問題でありました。全国・大分県と比べ、54 ポイントと低くなっております。初めて行われたこともあり、調査方法自体も、生徒も戸惑うところもあったのですが、英語に対してやはり課題が残る結果となっており

ます。特に、実際に使える英語ということを学校の中でも求められておりまして、きちっと正確にということはもちろんなんですけれども、概要とか要点をとらえる力が非常に求められていて、この調査問題から本市の子ども達は課題があることが見て取れております。

「大問 10」をみていただきたいんですけれども、まとまりのある文章を書く、全国的にみても 1.8%の正答率だったんですが、本市は 1.2%でありました。いろいろな条件が正答の中には入っておりまして、まず、どちらの案が良いのか自分で選択をするということ、そして選んだ理由について両方の案の良さや短所に触れながら考える。更に、25 語以上の英語で書かなければならないと、こういったことが今求められております。これらを授業の中でどのように力をつけていくのかということで、いま英語科の中で改善を進めているところであります。

続きまして、24 ページをご覧になってください。「学校質問紙・児童・生徒質問紙と学力の相関関係」ということで、学校に「主体的・対話的で深い学び」が求められているんですけれども、それが実際どのくらい行われているかということの結果であります。黒く太字になっている豊後高田市のところをご覧ください。学校の方が 100%そういった授業を行っているというふうな回答をしております。中段が、子ども達がそういった授業に対して積極的に取り組んでいますか？という調査なんですが、全国に比べて高い数字で、児童生徒ともに自ら取り組んでいるというふうな回答をしております。今の求められている授業に向かって、学校も子ども達もしっかりやれているというふうな回答結果になっております。

25 ページは参考資料です。豊後高田市はこういったやり方で授業改善を進めております。

続きまして、26 ページから体力の状況について説明させていただきます。全国の体力・運動能力調査ということで、各調査項目の右端に「Ｔ得点」と書かれていると思います。これは全国の数値を「50」と、これを基準にして 50 より高ければ全国を上回っているという見方をしてください。それを見ますと、すべての調査項目で全国を上回っております。けれども、中学校男子の「反復横跳び」と「20ｍシャトルラン」につきましては、全国に比べて課題が残っているかとというふうになっています。

それから、各項目に総合評価がパーセンテージで出ております。Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅということで子ども達の総合的な体力を見る数字なんですけれども、「Ｃ以上」の子ども達を目指していこうということでありまして、全国・県と比べても、対象であった児童生徒はかなり高い率でＡ～Ｃの中に入っております。ただ、Ｄ・Ｅの子ども達にもう少し運動能力をつけていくことが必要かなと思っております。各学校で体力向上プラン・１校１実践という取組みを進める中で、向上に向けて取り組んでいきたいと思っております。

最後になります。28 ページをご覧ください。「児童生徒の生活習慣に関する調査より【抜粋】」子ども達が運動やスポーツをどのくらいしているのかという調査と、運動やスポーツが好きかという調査になっております。「ほとんど毎日」「時々」の回答率を見ますと、豊後高田市の子ども達は、かなり「している」という結果が出ております。スポーツや運動が好きかという調査で、中学校女子が 76.6%と若干低くなっておりますが、総じて、運動への愛好度は高いと思っております。こちらの数字を上げていくために、取組みを進めていく必要があろうかと思っております。

以上でございます。

４．意見交換

○市長　佐々木　敏夫

ありがとうございました。

では、意見交換に入りたいと思います。どなたからでも結構です。

○委員　大嶽　由美子

では、「児童生徒の学力問題」についてです。先日、市の総合計画の会議に出席させていただいて、今後の教育の取組みについても、話し合いに参加させていただきました。その中で、委員さんから心配される声もありましたが、今の説明をお聞きする中で、児童生徒が確実に学力をつけているということや、方向性として子ども達の反応というか、質問の答えも、方向性としては間違っていないというふうに感じています。

○市長　佐々木　敏夫

はい。豊後高田市は正直言って、教育のまちづくりに前市長もしっかり取り組んでいただいて、なお29 年度からもさらにみんなも頑張っていただいているんで、それ以上に成績も体力も他を上回っているといういい数字がでております。

それとまた、英語教育についても社会のニーズがそっちの方向に向いておりますので、幼稚園の方も積極的に英語教育の雰囲気づくりを含めて、取り組んでいるところでありますが、まだまだ教職員の働き方改革を考えますと、先生方に無理が行っているのかなと、そういう意味で、代休をできるだけ、ローテーションを組んで、取っていただいて、過労で倒れないようにしていただきたいなと思っております。

またＩＣＴとか、国の法律で認めて、この方向にと、また新しい取組みを先生方が勉強なさって取り組まないと、そこまでやってないよという…、それともう一つは、財政面でですね、初期投資の５割は国が面倒を見ますよと、残りの５割の 60%、起債等の予算を、これについては 60%が 60%にならないんですね。60%の 70%を交付税でみるという、だから単純に 50%と 50%の 60%とすると、トータルで 80%国がみてくれるような、パフォーマンスにはなるんですけど、実際は 60 の７掛けになりますか、26%ぐらい市が持ち出しをしなければならない。

そして今、市役所の職員でも教育委員会でも皆さんパソコンを持って仕事に取り組んでおります。このパソコンの買換え需要は補助がないんですね。市の一般財源をすべて持ち出ししなければならない。だから、ＩＣＴをやった場合、入り口はいいけど後の５・６年後の買換え需要は全部市の負担になりますから、将来、杵築市みたいな状況の自治体がどんどん増えてくるなと…。

そういう意味で、豊後高田市の場合、私、思い切った施策をやっておりますが、草地のごみ焼却場、この修理費はすべて一般財源で、賄をするんです。これを今まで何十年間も、１年も切らさず平均 6,000 万から 7,000 万、「去年してまた今年やるの」と、今 40 数年経ってるプラントですけど、29 年度予算 6,800 万円、３月議会で認めておって、私になって 6,800 万円を 1,000 万円にさせていただいて、２年目は 2,000 万円、３年めはゼロと、今年もゼロと、修理しなくてもいいんですよ。そういう無駄は、省くところは省いていってるんで、意外と一般財源にシワ寄せが行かない。

だからふるさと納税で、子育て支援はすべてやっているので、高校までの医療費もすべて、幸いにふるさと納税で、だいたい経費が５割掛かるんです。３割がまず返礼品、あといろいろな手数料含めて概ね５割、そういう意味で繰越金がでて、30 年度・31 年度、28 年度は１億 4,000 万円、29 年度私になってから１億 4,300 万円、そして 30 年度が２億 8,000 万円、今年がいま現在４億 3,600 万円ぐらい、順調に、ただふるさと納税がなくなったら将来どうするんですかということもありますけれども、それはそれでしっかり無駄を省きながら対応できるという自信がありますので…。

ただ、子ども達にしっかりとした取組みをしていただく、その指導者の先生方の体力が問題だなと思うのが唯一の気がかりです。

私も県議会におって、県職員が病気が何パーセントかおって、長期休養、そして出てきても半年１年してまた…。先生方が一番わかるので、そして今度、子どもを産み育てたい、豊後高田市は、産んで休むなら拍手ですよという、また産休で休めばそれだけまた穴が開く、そしてＩＣＴとか英語教育というと、そして高田高校を守るという意味では、先生方の子どもを後を継がせるとしたら、国家試験に合格させる、だから高田高校じゃなくして、いい学校に親心で、だからやむを得ないので…。だから私、高田高校でも特特進をつくって、なぜ特特進かというと安心院高校があるんですよ。生徒数はそう多くないんですよ。そして普通科があって、農業高校も…、あのわずかな人数を３つくらいに分けているんですよ。だから、大分県も教育に取り組むんなら、しっかりとそこの目線で、地域づくり地方創生ということを考えたとき、幸い大分県も広瀬知事が３年で九州一をつくるということで、４年で九州一を成し遂げて、やっぱり目標を高くするとみんなが頑張ってできるもんだなと…。

ただね、ＩＣＴなんかいうと、豊後高田市は生徒が少ないからいい意味の辛抱をすれば対応できると思うんですけど、大きな自治体、大分市や別府市は大丈夫かなと…。

高井委員さん、何かご意見はどうですか。

○委員　高井　郁郎

いじめの問題ですけど、いじめられてる生徒にすれば切実な問題だと思います。この問題は毅然とした対応が求められると思います。それはどういうことかと私なりに考えると、いじめ被害者の保護といじめ加害者の罰則、というのが極論で言えば私は大事だと思います。

それと小さい時から、やはりいじめというのは一番卑怯で卑しいことだということを、ことあるごとに幼稚園の時から小学校低学年の時から、先生が学校で繰り返し繰り返し刷り込むということが、教員ではないので素人考えになるかもしれませんけど、それは大事だと思います。

○市長　佐々木　敏夫

はい、ありがとうございます。

宮崎委員さんどうですか。

○委員　宮﨑　みゆき

いじめで子どもが学校に行けなくなったときにですね、何か一つでもいいんで、これについては絶対に自信があると思えるものを持っていると立ち直れると思うんですね。一番大切と思うのが学力ですね、勉強ができると自分に自信がつくし、そして周りの見る目も変わってくるんじゃないかと思うんですね。だから、ビリーブに通っている子どもさん達にちょっとこう高い実力をつけさせてあげるといいんじゃないかと思ったことがあります。

○市長　佐々木　敏夫

はい。松成委員さんいかがでしょうか。

○委員　松成　康男

私は、学校施設の長寿命化についてなんですけれども、資料をみると築年数がかなり経ってる学校があるんですが、改修されて健全度自体は落ちてないところもあるんですが、建て直しなんかかなり、予算も莫大に掛かりますし、財政を圧迫するという話も聞いておりますので、そうはいかないかもしれませんが、この外壁のところの点数がわるいというのはやはり、外壁が落ちてきたりとかで、怪我につながらないかなと心配するところがあるので、そこはできるだけ早く解消してあげたほうがいいのではないかなという気はしました。

○市長　佐々木　敏夫

はい、ありがとうございました。

大嶽委員さんどうぞ。

○委員　大嶽　由美子

市長の先ほどのお話の中にも出てきてましたけど、教職員が新しい教育について研修をするのに、時間と体力を使って取り組むというのは確かにあると思います。　私の把握の中では、教職員は、ある程度健康で高い意識を持って取り組んでいると聞いていますから、そこのところを市全体でバックアップしていくというのは大変ありがたいと思います。

ちょっと話が変わるんですけど、いじめ不登校の問題にしても学力の問題にしても、いろいろ考えていく中で人口を増やすとか、ここで産み育てたいということも含めて、市全体がどうやってそういうような雰囲気づくり土壌づくりをしていくのかということで、私は豊後高田市が進んでいる方向が、市民にとっては居心地がいいとこがたくさんあると思います。それで市民の生活が安定して自治会の中で安定した暮らしをしていくと、生活全体、保護者が落ち着いていくと、それがまた子ども達にもいい影響を与えて、安心して学校にも行けて勉強もできるというようないい循環ができていると思います。それを市長も望まれているんだと思うんですけど、やはりそういう保護者が、安心して暮らしていけるという部分が仕事であったり、自治会の関係であったりとか、そういう部分を含めながら、教育関係に直接関係なくても結局保護者の意識というのがすごく子どもに影響しているというのを改めて最近感じておりますので、そこを市長も大事にされていると思いますが、そこをまた進めていっていただきたいなと思いました。

○市長　佐々木　敏夫

今の問題でですね、私の基本的な考え方は、第２の市町村合併が発生する、高田高校の統廃合、人口が減る、生徒が減ることが起こるという、これが基本的な考え方です。そのために対策があるのかないのかが子育て支援の対策なんです。

そしてもうひとつは、別の角度で、義務教育までの給食費の無償化、これの根本的な考え方は、差別をなくす。給食費を親の都合で納めてないのは先生方は生徒には言ってないんですね、誰が納めたか納

めていないか、でも生徒は知ってるんですよ。これが差別になってるんですよ。そして親の虐待も含めて満足いく食事がとれてない、学校に行けば楽しい、そして給食も成長期に食べられる、そういう環境づくりをするべきだろうと、そしてそれが移住定住に、また豊後高田に住んでいる人がもう一人子どもを産みたいという…。

今は夫婦共働きの時代なんで、女性は戦力なんで、じゃ３人４人産んだときに保育園に月に２万３万とられて、働いて対価が得られるのか、じゃ専業主婦で３人４人面倒見るのか、だから地域で子育てをという言葉のとおり、行政も含めて産みやすい環境づくり、それがひいては移住定住に結果としてつながってくるという、そういうサイクルでものを見ています。

香々地・真玉の庁舎が市町村合併になりました。よく、社会は企業誘致を言います。企業は生産ラインにつながってロボットやそのラインで人間が配置されます。唯一の企業はホワイトカラーの企業なんです。香々地の役場はホワイトカラーの企業を自ら放棄しますか、真玉もホワイトカラーの企業だったのに、役場を放棄しますか、ここを何で考えないのかな。姫島みたいにワークシェアリングをやるか、スリムで地元に、だから香々地の役場がなくなったら呉服屋もお菓子屋もぜんぶなくなってしまうんですよ。真玉の臼野の山田屋なんか１件しか残ってないので、だから生活環境整備が崩壊してしまう。なって考えるんじゃなくて今考えましょうと…。

そして、親が虐待に走る前に夫婦喧嘩から始まるんですよ。お金の問題、そしたら子どもが止めに入って、「お父さんお母さん」、「しゃーしい」っていうてビンタ振るう、そして泣く、悪い方の連鎖が起こる。だから小学校、幼稚園、保育園に行けば、腹すいたら満足に食事が、だから楽しい学校づくりをまずすることが差別をなくすことの一つにもなるのかなと、自分はそういう思いで一つの方針を立てて対策を、そして思いを成就させようと、とことん崩壊してしまって対策を打っても…、自治体も壊れてしまってやったって間に合わんのです。

総務課長からあることを…、「私たちは市長みたいな感覚、目線で物事を見たことがなかったですが」という、何でだからというと、草地のごみ焼却場、6,800万円掛かるものを1,000万円でできるんですかという、去年はゼロですよという、今年もゼロですよと言ったら、「市長、あまり無理を言わない方がいいんじゃないですか」という、むしろ担当課長に同情するような、だから担当課長に「あなたのお金だったらやりますか」、「役所のお金だから」といえばよしと、だったら子育て支援でまだ取り組んでやりたいことを…。だから私、29年度に７億9,000万円節約して、30年度が約３億、今年も２億ぐらいか、だから正直言って、ふるさと納税がなくても子育て支援はできるんですよ。悪いこと言う人は何を言っても言うんですよ。

あらゆる方向で…、私はどっちかというと仕事しない方なんで、仕事しないと横目でものが見えるので、「これ無駄や」と、だからうちの職員にも幹部になったら仕事するなと、遊べと、事務的に一生懸命していたらそれでめいっぱいで、目がいかないんですよ。

余談になりましたけど、子どものいじめ虐待、その根本を作らない、そして楽しい学校にするという思いで、宮﨑委員さんと高井委員さんの意見にいくらか答えられたのかなと思います。

別になんでも結構です。

時間は十分にありますので。

○教育長　河野　潔

先般、各学校のＰＴＡ会長、役員の皆さんとの懇談会がありました。その中で、基本的には学校は、先生たちはよくやってくれているというスタンスで話をしていただきました。

総じて豊後高田市の教育の質の向上、その質の向上は教師にとっては教師力をあげること、そして保護者の皆さんも家庭教育を基本とした質的な向上、地域それから多くの関係者の皆さんの質的な向上をすることによって、先ほど来、市長も話をしました「働き方改革」ということも、このことによって解決されることはたくさんあるなと、そういうふうに思っているところです。

ですから教育委員会といたしましては、学校関係者もそのへんに、しっかりそれぞれが自分たちの課題をもって、そしてそれを解決すべく努力をしていくと、いうことによって豊後高田市の教育というのがさらに一段と強化されるんではないかと、そう思

っているところであります。

課題はたくさんありますけれども、これからもそういう気持ちで前に進んでいきたいと思います。

○市長　佐々木　敏夫

はい、ありがとうございます。

皆さんどうですか。

よろしいですか。

大変貴重な意見をありがとうございます。これで議題も終わりましたので、議長を後退させていただきます。

ありがとうございます。

５．閉会

○市総務課長　佐藤　之則

それでは以上を持ちまして、令和元年度第１回豊後高田市総合教育会議を終了いたします。たいへんお疲れさまでございました。

（15：10 終了）